

第6項 炭素吸収施策

排出された温室効果ガスとの均衡を保つには、二酸化炭素を吸収する森林等の保全を行う必要があります。

福岡市では、市内の緑による二酸化炭素吸収量は年間約8万tとされており、その内訳は、市域にある森林によるものが中心となっています。

めざす姿 豊かな森や海が育まれているまち

- 温室効果ガスの吸収源として、生物多様性を維持しながら、市内の森、農地、みどりや海などの自然資源が適切に整備・保全されている

1 国等の動き

森林

- 適切な経営管理が行われていない森林の経営管理を林業経営者に集積・集約化

木材利用

- 公共建築物や中大規模建築物等の木造化・木質化をより一層促進する、いわゆる改正公共建築物等木材利用促進法の施行

ブルーカーボン

- 「温室効果ガス排出・吸収目録（インベントリ）のための IPCC ガイドライン」への掲載に向けた温室効果ガスの吸収・固定量の算定方法の研究

2 市民・事業者・行政が取り組む方向性

めざす姿に向け、国等の動きを踏まえ、市民・事業者・行政が取り組む方向性は、以下の4つです。

- 1 森林等の保全・再生
- 2 木材利用
- 3 みどりあふれるまち並みの形成
- 4 ブルーカーボンの創出

3 方向性ごとの主な取組み

1 森林等の保全・再生

森林等が有する炭素吸収機能の発揮に向けた取組みを行います。

【市民・事業者の取組例】

- 森林所有者は森林の下草刈りや間伐などを行います。また、市民・事業者は森林保全のボランティア活動に参加します。
- 森林由来のオフセット・クレジットを購入し、森林保全活動を応援します。

＜関連する行政の取組み＞ ★：新規・拡充事業

- 森林の整備の推進
 - ・ 荒廃した森林の間伐などの整備を推進します。
 - ・ 主伐（皆伐）後に再造林を行います。
 - ・ 市民、NPO、企業などによる森林保全活動を支援します。
- クレジットの活用
 - ・ 市営林によるカーボン・オフセットの取組みを市民・企業などへPRし、クレジットの活用による森林整備を図ります。
- 森林に親しむ環境づくり
 - ★ 油山市民の森の再整備などによる市民が森林に親しむ環境づくりを行い、森林に対する市民の理解促進を図ります。
- 農地土壌への炭素貯留などの推進
 - ・ 農地への炭素貯留につながる、堆肥や緑肥など有機物を施用した土づくりに関する支援を行います。また、有機JASなど化学肥料に頼らない取組みを情報発信します。

～コラム～

Fukuoka Green NEXT

みんなで守り・楽しみ・活かす
都市・ふくおかの森づくり

福岡市の市域面積の3分の1を占める森林は、山～川～海の水の循環を生み、山のミネラルが豊かな博多湾の海産物を育み、二酸化炭素の吸収や生物の多様性、災害防止、リフレッシュやレクリエーションの場、そして木材等を生産するなど、持続可能な社会の実現にも貢献する多くの機能を持っています。

「Fukuoka Green NEXT」では、森林の持つ多面的機能をより高め、快適で豊かな市民の生活を持続的に支えることのできる環境を次世代に残していくことを目指し、将来像「みんなで守り・楽しみ・活かす都市・ふくおかの森づくり」の実現に向け、5つの基本方針に基づき、関係者と連携した施策を展開していきます。



<基本方針>

毎日の暮らしを快適にし、災害を減らす
「安心の森づくり」

身近な自然を体験し学ぶ
「遊びの森づくり」

青振山系から博多湾まで流域全体で行う
「水循環の森づくり」

気候変動対策と生物多様性保全に応える
「環境の森づくり」

持続的な森の利用と生産を目指す
「なりわいの森づくり」

～コラム～

生物多様性と気候変動

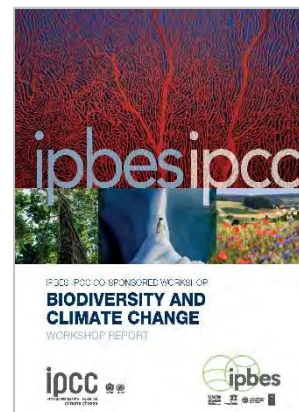
地球温暖化を一因とする気候変動への対策には、生物多様性の観点も取り込んで実施することが重要とされています。

2021（令和3）年に、「生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）」と「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の共同報告書が初めて発行されました。

その報告書では、気候変動の緩和策や適応策のみに焦点を絞った対策では、自然や自然の恵みに直接的・間接的な悪影響を及ぼす可能性があるとしています。

例えば、外来樹種を用いた再植林は、気候変動緩和に貢献する可能性がありますが、生物多様性に悪影響を与えることが多いため、樹種を踏まえた植林など生物多様性を維持しながら対策を行うことが重要とされています。

気候変動と生物多様性の損失への対策、すなわち脱炭素対策と自然資本の増加について、それぞれではなく共に行うことで、利益を最大化し、グローバルな開発目標を達成するとされています。



▲ IPBES-IPCC 共同報告書

2

木材利用

炭素を固定し、他の建材と比べ炭素排出の少ない、木材の利用に取り組みます。

【市民・事業者の取組例】

- 住宅や建築物の新築・改修、購入にあたっては、木造建築や内外装への木材の活用を検討します。
- 木材製品を選ぶ際は、適切に管理された森林の木材を表す「FSC 認証」や 間伐材を用いた製品「間伐材マーク」などの環境ラベルを確認し、参考とします。

<関連する行政の取組み> ☆：新規・拡充事業

- 木材利用の啓発
 - ・ 公共建築物の木質化や木造化を推進することにより、木のぬくもりや優れた断熱性・調湿機能などの特長のほか、木を使うことが森林の炭素吸収など森林の多面的機能の発揮につながることを情報発信します。
- 安定的な木材利用の仕組みづくり
 - ★ 地域産材の利用を促進するため、伐採から製材、利用に至る供給の仕組みづくりを行います。

3

みどりあふれるまち並みの形成

緑の風景を形づくり、癒しとやすらぎを与える、都市部での緑化に取り組みます。

【市民・事業者の取組例】

- 樹木の敷地内への植栽や、ヒートアイランド現象の緩和のため屋上や壁面の緑化に取り組みます。

<関連する行政の取組み>

- 公共用地や民有地の緑化の推進
 - ・ 街路樹や公園整備など身近な緑づくりを進めます。
 - ・ 都心部機能更新誘導方策など様々な制度を活用し、緑化を誘導します。

4 ブルーカーボンの創出

福岡の豊かな海を活かし、海洋生態系による二酸化炭素の吸収・固定に取り組みます。

【市民・事業者の取組例】

- 藻場や干潟などのブルーカーボン生態系について理解を深めます。
- ブルーカーボンの創出につながるアマモ場づくり活動など、海の保全活動に参加します。

<関連する行政の取組み> ★：新規・拡充事業

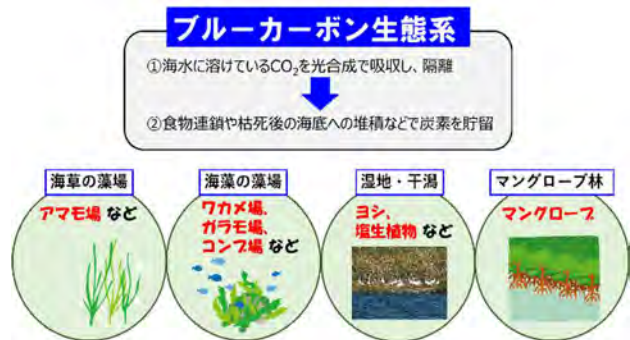
- 藻場の保全・再生
 - ★ 市民や漁業関係者、事業者と連携・共働して、アマモ場やガラモ場などの保全・再生に取り組みます。
- 生育環境の調査・把握
 - ・ 博多湾海域における栄養塩などの水質モニタリングを行うとともに、海洋生態系を構成する生物の生育・生息環境の調査を行います。
- アマモ場づくり活動の推進
 - ★ 多様な主体と連携・共働し、アマモ場づくり活動の推進を図ります。

～コラム～ ブルーカーボンについて

森林などの陸上の植物が固定する炭素「グリーンカーボン」に対し、アマモなどの海草やワカメなどの海藻、植物プランクトンなど、海の生物の作用で海中に取り込まれる炭素のことを「ブルーカーボン」といい、海域における吸収源「ブルーカーボン生態系」が近年世界的に注目されています。

ブルーカーボン生態系には、アマモ場などの海草の藻場のほか、ワカメ場、コンブ場などの海藻の藻場、また湿地、干潟、マングローブ林があります。

福岡市では、市民や市民団体、企業、漁業者、学校など多くの方々と連携・共働して、「海のゆりかご」ともよばれるアマモ場を増やす活動に取り組んでいます。



4 成果指標

成果指標	初期値	現状値	目標値 (2030年度)
森林の間伐等を実施した面積	898ha (2013年度)	1,301ha (2020年度)	1,630ha [※] (2026年度)

※ 関連計画である福岡市農林業総合計画の計画期間が2026（令和8）年度までであるため、当該計画の見直しにあわせて再設定します。